

9月医療安全管理室ニュース

2022年9月20日 あおもり協立病院 医療安全管理室

いつもインシデント入力して頂き有難うございます。

「胃ろうを自己抜去している！！」

その後の対応は ？

今回は胃ろうの自己抜去時の対応になります。2021年1月にも同様の事象が起きました。たびたび起こるインシデントですので共有をお願いします

胃瘻患者に朝の栄養を接続しよう訪室すると、布団の中に自己抜去した胃ろうを発見した。既に瘻孔が塞がっており、主治医が来棟するのを待って経過報告した。結果、即日再建設となった。

胃瘻抜去された状況が発見すると焦りますよね。この時の心情がよくわかります。

この状況が発見した場合、あなたならどのように行動しますか？

ご存じの方も多いと思いますが再確認です

- ・胃ろうは約3週間で瘻孔が出来上がります。
- ・抜去された場合、約2～3時間後から穴が収縮していき24時間で閉塞します。

以上のことから抜去を発見した場合、早めの瘻孔確保が望まれることになります。

*** 忘れたところに発生する事象ですので、**

新人やベテラン等の熟練度にとらわれず対応手順を今一度再確認してください。

手順は次の頁になります。

PEG 抜去時のフロー（医療安全マニュアルより抜粋）

5、チューブ類
(2) PEG 抜去時手順（病棟用）

文書整理番号
E-21-e-5 (2)
あおもり協立病院

自己・事故抜去発見時



・第一発見者が行うこと



- ① 抜けた物品の確認する
【カテーテル先端が脱落していないか】
- ② 瘻孔の状態を確認する
【時間がたつと瘻孔が
塞がってしまうため】



◇ 当直医・責任看護師・主治医に報告して診察を依頼する



注意！！
◇ 瘻孔確保（ネラトン挿入）は
医師が行う
* 看護師は挿入しない
* 挿入後シルキーで固定する



家族に連絡をして経過説明をする

* 夜間休日の場合は休日明けに主治医が再挿入のオーダー依頼をする。

* 再挿入・再造設については、発生した状況により、再挿入・再造設日時が異なるため、内視鏡スタッフが日時調整する。

看護師は以下をチェックし記録する



看護カルテ⇒表示条件⇒
「サブタイトル：PEG」で検索
(胃壁固定時コメント記載あり)

◇ 造設日

- ・ (瘻孔形成の有無)
- ・ (胃壁固定されているか)
- ・ (PEG 増設 2 週間未満か)

◇ 胃瘻の種類・サイズ

・ 胃瘻造設時は
セフティキット 20Fr を挿入
の為可能な限り挿入時と同じ
20Fr ネラトンで対応する

◇ 閉鎖している場合は
(ガーゼ保護) とし、再挿入する

◇ 腹部の観察を行う

注意！

* バルンカテーテルは挿入禁止
(胃内に挿入されていない場合、
Ba を膨らませると
事故につながる為)

* 瘻孔確保できても栄養は入れない

* 医師に点滴・内服を確認する

対応の順番と注意点

1. 発見時は先端確認すること
2. 医師、責任看護師への報告と物品用意
(20Fr で造設しているためネラトンカテーテルも 20Fr を用意する)
3. 挿入は医師が行うこと。
4. 瘻孔確保ができて経腸栄養を行わない。
* 尿道留置カテーテルは挿入しないこと。
(固定水を入れることで腹腔内誤挿入固定を避けるためです)

となります。

これまでのインシデントやアクシデントの歴史から、

当院での抜去時の対応は「**医師が瘻孔確保する**」こととなっています。

ご理解とご協力をお願い致します。

みんなで守ろう、患者安全！